

## 元禄潜穴・明治潜穴・品井沼干拓年表

西 曆	年 号	主 要 事 項
6～7世紀 774	大化5	このころ、道奥(陸奥)国を置く 坂上田村麻呂征夷大將軍に任ぜられる 前九年・後三年の役
1185	文治5	源頼朝、平泉藤原氏を滅ぼす
1190	建久1	このころ大崎五郡に頼朝の御家人河内四頭(上杉・泉田・渋谷・狩野)を配す
1354	文和3	奥州は斯波(大崎)・石塔・吉良・畠山の四管領となり争う
1488	長享2	大崎氏内乱、伊達氏の援助により鎮定
1523	大永3	伊達植宗陸奥国守護となる
1536	天文5	大崎氏内乱、伊達植宗出陣し鎮定
1588	天正16	伊達政宗、千石城を基地にして大崎氏領内に攻め入り敗戦
1590	天正18	伊達政宗、小田原参陣。 豊臣秀吉、全国統一。秀吉の奥州仕置。葛西・大崎氏等没落。葛西大崎一揆。
1601	慶長6	政宗、仙台城に移る
1613	慶長18	支倉常長ら180人遣欧使節が月浦を出帆
1623	元和9	川村孫兵衛、北上川水路改修工事に着手
1646	正保3	加美、志田、黒川三郡にわたる荒川堰の工事を起こす。設計監督は大越喜右衛門、前田嘉左衛門があたる。
1655	明暦1	茂庭家記録、品井沼沿革紀要成る。荒川堰竣工(水路延長1879間・関係反別238町歩余)
1684	貞享年中	藩士我妻六兵衛、品井沼開墾につき、縄引き(測量)に当たる
～1687		
1693	元禄6	7月15日、仙台藩直轄として品井沼潜穴(元禄潜穴)工事の鍬立式が行われる。総指揮者御大越喜右衛門
1698	元禄11	8月15日、元禄潜穴工事が竣工する。総指揮者大越喜右衛門自決する。
1702	元禄15	6月、排水開田の事業一段落し、藩の直轄を解かれる
1731	享保16	品井沼第一次潜穴の浚渫工事を行う
1743	寛保3	品井沼第二次潜穴の浚渫工事を行う(藩役人安田次左衛門ほか2名)
1745	延享2	品井沼第二次潜穴の浚渫工事を行う(上廻役人として青木弥太郎、安田次左衛門命ぜられる)
1751	宝暦年中	鎌田三之助の先祖茂庭氏に仕える(祖先は信濃国諏訪から出て初め伊東と称した)
～1763		
1781	天明年中	天候不順、不作凶荒相次いで起こる
～1788		
1807	文化4	11月、品井沼潜穴浚渫の大工事が起工され、2年間で竣工す(第四次工事)
1808	文化5	春、品井沼改修工事人足1万4183人、26か村の最高は羽生村の1229人
1809	文化6	品井沼第4次潜穴の改修工事2か年にわたり12月29日終了する。夫役延べ33万9215人
1811	文化8	鎌田三之助の祖父鎌田玄光竹谷に生まれる
1830	天保1	9月19日、鎌田三治(三之助の父)生まれる
1836	天保7	安積栄之丞、木間塚村に生まれる(私財をなげうち品井沼干拓に貢献する。後に士格に列せられる。)
1837	天保8	天候不順、不作続き、逃散する者多く、惨状を極める
1841	天保12	第五次品井沼潜穴の改修工事が行われる
1853	嘉永6	大迫村に農民騒動起こる
1857	安政4	寒風沢造船所で軍艦開成丸が進水する
1861	文久1	品井沼潜穴第六次浚渫工事が行われる。翌年も続く。
1863	文久3	1月13日、鎌田三之助生まれる
1867	慶応3	大政奉還
1868	慶応4	明治戊辰戦争が起こる
明治1		土佐相模守の取締地となる。廃仏毀釈吹き荒れる。
1869	明治2	土佐相模守の取締廃止、涌谷県となり、8月登米県と改称され、その行政区内に置かれる
1870	明治3	3月、肝煎名称が村長に改められた
1871	明治4	廃藩置県(3府302県)
1872	明治5	仙台県改め宮城県となる
1877	明治10	西南戦争起こる
1878	明治11	大久保利通が暗殺される。政府野蒜築港に着手
1879	明治12	12月27日、潜穴浚渫、築堤の官費支出を内務省に懇請し補助を得る。ドールン来県
1880	明治13	7月、品井沼改修工事(第七次潜穴の浚渫工事)実施
1882	明治15	内務省土木局雇ドールン品井沼の実測を行う
1884	明治17	天然痘流行す、鎌田三之助痘苗を購入し村民に接種する
1886	明治19	旧潜穴の浚渫工事が行われる 鎌田三之助、開業医の居ないことを憂え、栃木県人大越寿草を木間塚に招き、開業させた

1889	明治22	市町村制実施、6か村が合併し、鹿島台村となる(戸数770戸)。 品井沼沿村組合設立(松島・鹿島台・大谷・粕川・大松沢の5か村)。 品井沼の堤防決壊(3郡5か村)
1890	明治23	東北本線開通、品井沼、鳴瀬川の堤防決壊 第一回帝国議会が開かれる
1892	明治25	3月、鹿島台駅営業開始
1894	明治27	鎌田三之助県会議員に初当選 8月、日清戦争始まる
1895	明治28	品井沼沿村組合の主な事業として、元禄潜穴の入口に煉瓦、石造りの閘門を築造する
1896	明治29	三陸大津波
1898	明治31	元禄潜穴の浚渫、穴入口と堅穴の欠削防備工事を実施 鎌田三之助県会議員に再選
1899	明治32	品井沼沿村組合 県補助を受け実測調査を施行。
1901	明治34	9月、品井沼沿村組合を品井沼水害予防組合と改める
1902	明治35	初秋霜雨連日にわたりほとんど凶作 鎌田三之助衆議院議員に当選
1903	明治36	8月、9月、鳴瀬川氾濫し水害となる 鎌田三之助衆議院議員に再選 仙台土木監督署の後援による実測調査(第二期)に基づき、事業計画を樹立する
1904	明治37	鳴瀬川、品井沼出水
1905	明治38	天保年に劣らぬ大凶作 品井沼第三期調査実測が行われる
1906	明治39	11月、鎌田三之助、村民10数名とともにメキシコに渡航する 品井沼水害予防組合の付属工事として、小川水門の新設並びに鳴瀬川改修工事に着手する 5月、南北平堀より排水路工事を起こす(明治潜穴と排水路工事の起工式が開催) 8月、松山町内の堤防が決壊、船越水害となる 9月18日、日本鉄道線路鉄橋の架換工事が着手 12月 小川閘門改修が完了
1907	明治40	鳴瀬川氾濫 鉄道線路、鉄橋架換工事が竣工
1908	明治41	1月、鎌田三之助 品井沼問題解決のため、知事の懇請によりメキシコから帰朝 10月3日、東宮殿下(大正天皇) 鹿島台～松島間の排水路付近に1分間停車し、工事を激励する
1909	明治42	5月、大洪水、明治潜穴の隧道崩壊、工事の中止論起る 鎌田三之助これの調整に奔走 開墾移民の先駆として、山形県北村山郡長瀞村(現在の東根市長瀞)から18戸入植 3月13日、鎌田三之助村長に就任
1910	明治43	山形県から26戸移住する 12月26日、明治潜穴竣工し、通水式を挙げる
1911	明治44	3月、品井沼耕地整理組合を設立し、開墾事業の進捗を図る 6月、木間塚明神裏堤防押切られる
1912	大正1	品井沼水害予防組合で第一次開拓計画がたてられる
1913	大正2	品井沼開墾期成会が誕生する
1915	大正4	品井沼にブロック毎に囲繞堤をつくる
1917	大正6	県内200戸、県外62戸入植 県営鳴瀬川、吉田川改修工事が起工 品井沼干拓揚水機東西の3か所に設置
1918	大正7	第二次開拓計画を樹立
1919	大正8	第二次移民募集が始まる
1921	大正10	吉田川改修工事が着工
1923	大正12	鳴瀬川改修工事(内務省直轄工事)が行われる
1925	大正14	品井沼囲繞堤築造工事が行われる 9月、品井沼堤防決壊
1927	昭和2	鎌田三之助 自治治水功労者として藍綬褒賞を賜る 4月、鳴瀬川堤防5か所欠潰、船越甚大な被害を蒙る
1932	昭和7	鎌田三之助 新宿御苑の観菊御宴に御召を賜る
1933	昭和8	耕地整理組合が認可される
1934	昭和9	9月、吉田川欠潰し水害となる
1936	昭和11	鎌田三之助 大臣や教授に伍し国会議事堂で講演
1940	昭和15	2月、鎌田村長 県町村長会長となる 吉田川改修(沼から分離)サイフォンを設置工事竣工 開墾助成事業が発足する
1942	昭和17	吉田川サイフォン付近(検行裏)に第一揚水機を設置する
1944	昭和19	鎌田村長 自治功労により、自治顕功章および瑞七を賜る
1946	昭和21	緊急開拓委託事業発足(水田192町歩ほか)

1947	昭和22	品井沼第二揚水機(藤房前)を設置する
1948	昭和23	8月、アイオン台風により水害となる。吉田川改修(断面拡大)サイフンの拡張工事に着手 品井沼地区代行干拓事業が発足する
1949	昭和24	鳴瀬川に揚水場を新設。鶴田川改修工事が着工。品井沼水害予防組合事務所が開鎖。
1950	昭和25	5月3日、鎌田三之助88歳で逝去(9日に村民葬執行) キティ台風により大水害となる
1951	昭和26	品井沼地区代行干拓事業が竣工 7月1日、町制を施行し鹿島台町となる 品井沼水害予防組合が解散する
1952	昭和27	志田郡外二郡品井沼土地改良区が設立 4月3日、鎌田翁銅像除幕式ならびに遺品展覧会を行う 12月、品井沼水害予防組合が解散
1955	昭和30	品井沼土地改良区と名称が変更される
1959	昭和34	品井沼水害対策協議会および期成同盟会が発足する
1961	昭和36	品井沼干拓地372町歩を遊水地に決定する
1963	昭和38	鶴田川沿岸排水改良事業が県営工事として行われることに決定する 品井沼遊水地内人畜移転工事が着工
1965	昭和40	品井沼遊水地内人畜移転工事が完成する 志田谷地地区県営かんばい排水事業が着手
1968	昭和43	12月、「百折不撓」品井沼開拓発祥の碑が建てられる
1969	昭和44	7月、財団法人宮城県品井沼耕作地災害補償管理組合が設立される 8月、鶴田川沿岸土地改良区と名称が変更される 12月、遊水地内作物補償契約の調印が県庁で行われる
1972	昭和47	鶴田川地区県営ほ場整備事業が着手される
1978	昭和53	6月、宮城県沖地震で高城川トンネル(明治潜穴)の下流部が大きな損害を受ける
1979	昭和54	高城川トンネル(明治潜穴)災害復旧工事が着工
1980	昭和55	県営かんばい排水事業が完成し3月26日に竣工式が行われる
1981	昭和56	10月、高城川トンネル(明治潜穴)災害復旧工事が竣工する
1986	昭和61	8・5豪雨で吉田川が氾濫し未曾有の水害を受ける 10月、8・5豪雨災害を復興する町民大会が開かれる 建設省から激甚災害特別緊急事業に指定される
1988	昭和63	品井沼低平地が全国唯一のモデル地区に指定され水害に強い町づくり事業が発足する
1989	平成1	水害に強いまちづくり基本構想が策定される
1990	平成2	3月、水害に強いまちづくり事業推進協議会が発足する 11月16日、吉田川流域激甚災害対策特別緊急事業の竣工式典、記念碑除幕式・祝賀会が開催される

(参考)

鹿島台町史(平成6年3月31日発行)

宮城県土地改良史(平成6年3月10発行)

元禄潜穴(三浦誠一著 平成20年1月15日発)